

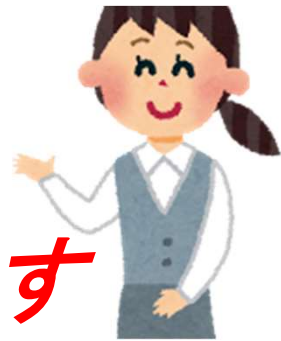
株式会社 F・ジャパン  
〒646-0027 田辺市朝日ヶ丘25-3  
TEL0739-26-7297 FAX0739-26-0506

HP: <http://f-japan.hoiy.jp>

## 今では“がん”も治る病気に...早期発見・早期治療が重要 定期的な「がん検診」

昭和56年から死因第1位  
3人に1人が“がん”で

## の受診！を おすすめします



「日本人の死因で最も多いのは？」という質問に、ほとんどの方が“がん”とすぐに答えられるほど、“がん”は日本人にとって国民病となっています。昭和56年から死因の第1位となつて以降、着実に増加し、今では3人に1人が“がん”で亡くなっています。

厚生労働省の「平成25年人口動態統計」によると、年間の死亡数は126万8,436人で、そのうち死因が「悪性新生物（がん）」だったのは、男性21万6,975人、女性14万7,897人の合計36万4,872人で、全体に占める割合は28.8%となっています。第2位の「心疾患（心臓病）（19万6,723人）」の倍近くの数となっています。「がん」の部位別でみると、「肺がん」で亡くなった人が最も多く7万2,734人、「胃がん（4万8,632人）」「大腸（結腸と直腸）がん（4万7,654人）」と続き、男性では「肺がん」が、女性では「大腸がん」がそれぞれ第1位です。年齢とともに“がん”にかかる可能性が高まります。よく遺伝するといわれますが、実際は遺伝よりも、喫煙や食生活、運動、睡眠といった普段の生活スタイル、いわゆる生活習慣が大きく影響するといわれています。また、“がん”の恐ろしいところは、初期にはほとんど自覚症状がないということです。そこで重要になるのが「がん検診」です。医学技術の進歩によって、今では“がん”も治る病気になってきています。とくに進行していない初期の段階で発見し、適切な治療を行うことで、治癒する可能性が非常に高くなるだけでなく、治療に要する費用や時間などの負担も軽くなります。だからこそ、定期的に検診を受けることが大切なのです。がん検診では、とくに「子宮頸がん（20歳以上の女性、2年に1回）」「乳がん（40歳以上の女性、2年に1回）」「大腸がん（40歳以上の男女、年1回）」「肺がん（同）」「胃がん（同）」が有効だといわれています。生活習慣の改善に心がけ、できるだけ“がん”にならないようにし、仮になったとしても、早期発見・早期治療で完治させる、この「二段構え」で、“がん”と向き合うことが重要だといえます。



部位別のがん死亡数の順位（厚生労働省「平成25年人口動態統計」）

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺がん	胃がん	大腸がん (結腸と直腸)	肝臓がん	膵臓がん
女性	大腸がん (結腸と直腸)	肺がん	胃がん	膵臓がん	乳がん

お気軽にご相談ください！ ご相談だけでもかまいません  
私たちは、お客様一人ひとりに合わせた保険をコンサルティングいたします。